

事前質問	ドローンにも自動車の交通システムのようなものを考えている。例えば、自動車には信号機、車検、車庫証明、自賠責保険、ナビシステム、駐車場等の交通システムがあるが、自動車用の交通システムのように、ドローン版のシステムの構築は可能か。
------	---

➤ **PwC コンサルティング 杉原 回答**

ドローンにおいても、UTM、機体認証、ドローンポート、FOS のように、まさにドローン版の交通システムの構築が行われているところである。ドローンの場合車庫証明が必要ない点は、自動車と異なる点である。

会場からの質問	ドローンは DJI 等の中国製が中心で、中国では低空経済として、ドローンの技術を応用したドローンと空飛ぶクルマの中間のような乗り物の開発が進んでおり、今年度には世界に先駆けて商業化が見込まれている。海外の動向に関する調査について、欧米を中心に調査を行っているが、中国の法律等動向の調査を検討しているのか、もしくは調査は行わない方針なのかを知りたい。
---------	--

➤ **PwC コンサルティング 杉原 回答**

月次レポート等では中国の情報を含めて配信しており、中国等欧米以外の調査をスコープから排除しているわけではない。昨年度は、ASEAN についての要望があったため、ReAMo 外の調査結果になるが、意見交換会で取り扱った。中国の調査について、プロジェクト当初から多くの要望が寄せられていることを認識しており、現在の枠組みでどこまで焦点を当てるか、引き続き METI・NEDO と議論したい。

会場からの質問	FAA が Part 108 を間もなく公開するとの話や ICAO や EASA が世界標準を 2027 年頃に公開するとの話があったと記憶している。公開のスケジュールは特に変更ないか。
---------	---

➤ **PwC コンサルティング 杉原 回答**

Part 108 案は昨年公開される予定であったが、トランプ政権への移行に伴い、省内での最終調整や承認が下りない状況で公開が遅れている。FAA は様々な会合でもうすぐ公開すると述べており、関係者からの話では今年の 6 月から 8 月頃に案を発表する見通しと聞いている。案を公表後、意見募集を行い、1 年半ほどで最終化すると、最終版の公表は 2027 年になると思われる。

会場からの質問	規格の開発状況が示されているが、各規格の概要や、より詳細な情報について、どこからアクセスできるのか知りたい。
---------	--

➤ **PwC コンサルティング 杉原 回答**

欧州の EUSCG と米国の ANSI が、ドローンの規制や規格の一覧を DAA 等の分野別に整理したものを、毎年又は半期に 1 回程度更新し、公開している。それらを参照

しているため、英語ではあるがそのウェブサイトからの確認が早い。規制や規格の一覧を日本語化する取り組みを今年度中に試行する予定で、進捗があり次第情報共有する。

会場からの質問	様々な規格の議論が ASTM や SAE で行われているが、そのような情報のフィードバックについて、ReAMo プロジェクトチームとのやり取り、意見の出し方等含めて、プロジェクト内でどのように動いているかの仕組みを知りたい。
---------	--

➤ **PwC コンサルティング 杉原 回答**

まさにそのような仕組みが重要と考えている。我々は概要の整理を行っているが、その資料を参考に各コンソーシアムの方々が標準化をどのように進めるか検討しているほか、実際に標準化の場で提案していることから、そのような方々に動向を伝える役割があると認識している。

また、ISO をはじめとして国内に委員会が存在する標準化機関があり、そこでは ReAMo の枠を超えて業界の方々が参加し、各国から提案された内容や日本が提案する内容について議論が行われている。ReAMo の外側にある大きな枠組でも、動向を伝える役割を担うものとして存在していると考えており、今後も連携を取りながら進めていきたい。

オンラインからの質問	国内外の展示会に出展される際の主要 KPI にはどのようなものがあるか。
------------	--------------------------------------

➤ **PwC コンサルティング 杉原 回答**

定量的な KPI は設定しておらず、定性的なものになる。毎年どこに出展するかを考える際に、「欧州・米国の（出展回数の）バランス」や「ドローン・空飛ぶクルマのバランス」、「集まる業界の関係者（どのくらい航空局の方が参加する会なのか、民間のマネジメントクラスの方が参加する会なのか）」について、過去に参加した経験を踏まえて、出展する展示会を選定している。

オンラインからの質問	ICAO の AAM Study Group について、今年度中の開催は何回予定されているか。また、国内への情報提供については、開催の都度実施する予定か。
------------	---

➤ **PwC コンサルティング 杉原 回答**

ICAO の AAM Study Group については、年に 2、3 回の頻度で開催されている。内容は基本的に非公開のため、議論中の内容を公開することは難しい。今年度成果物が公表される予定であるため、成果物が公表され次第、ReAMo シンポジウムまたは、ReAMo ウェブサイトを通じて情報を公開する予定である。

オンラインからの質問	防衛用段ボール製ドローンが報道された。国内で現状概念のドローンと同等（測量用、配送用など）に使用できるものか。
------------	---

➤ **PwC コンサルティング 杉原 回答**

防衛用途を起点に開発されたドローンを災害対応や物資輸送等、民間分野に適用することが期待されているが、現在展開されている商用ドローンと同等の安全性や性能を有するかについて検証が必要と考える。

段ボール製は、損傷しても現場で簡単・安価に修復して運航を再開することを目指しているが、測量や配送に使うドローンはそのような運航を想定していない。